

7月24日の新聞にチャツボミゴケ公園が紹介された。またまた中之条、旧六合村にある。標高約1200メートル戦前鉄鉱石採掘で露天掘りされた。当時はこの鉄鉱石を運搬のため六合村から長野原駅に鉄路が引かれていた。貨物の上に乗るのは無料で長野原駅まで乗ったことがある。

チャツボミゴケは酸性の強い水辺を好むという。

「コケは鉄鉱石の生成を促すというから驚きだ」とあるから驚きだ。

ここは「芳が平ら湿地群」の一部、ラムサール条約に登録されさらに国の天然記念物に指定された。チャツボミゴケの見物には足がない行くならJR吾妻線長野原草津口駅からタクシーで約45分という。

酸性を好むと言えば「お医者様でも草津の湯でも惚れた病はこりゃなおりやせぬよ・・・」という草津温泉は酸性が強い。使用後のお湯は石灰で中和したうえ吾妻川に流している。

チャツボミゴケは旧六合村だけ、嬭恋村の万座温泉も草津温泉も酸性であるがチャツボミゴケはないらしい。

ただし、草津の源泉は高温、高酸性でそんな湯畑には微生物、ケイソウが生息しているという。これが生息の最適条件らしい。

チャツボミゴケ公園 21/8/1 Hidekuro



チャツボミゴケは旧六合村

朝に起きた大事件、未明だ、うす暗い、寝苦しい、上掛けを開けて足を出す。「おや！」足の中に何かある、暗くてよく見えない。電気をつけて確認したいが、かみさんがなんていうか、目をこらしてみるのが、どうも黒くて丸い虫ではないか？指先でついてみた。ころりと逃げのようすあり、ただ素早く逃げる様子ではない。

虫なら気持ち悪いさっさと殺中剤をかけてヤツツケロ。その殺中剤はかみさんのベッドの上にあるかみさんを起こさないで取るには四つん這いになって何とか取る、へんな虫が逃げないようにチラチラ監視しながら。

殺中剤をかけてみると急いでにげるのかなとおもいきや、にげる気配はない。死んだのかと指でついてみるとゆらりと動く、死が迫っている。

得たいのしれない虫を手づかみは気味が悪いので、就寝時にしている口封じ（粘着テープ）を1枚とってこれに貼り付けてごみ箱に捨てた。

かみさんが起きてきた。寝ていられないとって。

かれこれしかじかかくかく それでかみさんがその虫とやらを

検分すると、これはなんじゃ！ 虫ではない。黒いゴムの小さいキャップだった。

私はこんなものと1夜をすごしたのか。

未明の大事件 21/8/5 Hidekuro



口封じ用のテープに絡めた奇妙な虫  
実はキャップ